

科目名: <b>税法判例の読み方</b>		科目コード	HH15	
科目主査: <b>齊藤 聡</b>		担当講師: <b>齊藤 聡</b>	単位	2
			配当年次	1
授業の目的と概要	グループワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	個人ワーク: <input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし		
<p>この授業は、大学院へ進学を希望する学生、もしくは法律の学習を深めたい学生が対象です。大学院では、税理士資格の取得を目指して、修士論文を作成します。その修士論文を国税庁へ提出し審査に合格しなければなりません。そのため、修士論文を書くための基礎知識をこの講座で学びます。学習は次の流れが基本になります。①条文を理解します。②過去の事件から、その問題点を明確にし、判例を研究します。③判例への学者の意見(学説)を調べ、その意見について自分の意見を述べます。大学院進学後に困らないように、その準備をすることが目的です。企業での法務担当者やコンプライアンス担当者にとっても役に立つ内容です。</p>				
履修の前提となる科目	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	科目名:		
履修の前提となる知識 その他特記事項	租税法(所得税、法人税、消費税、相続税等)について関心がある方が望ましいです。			
テキスト	『租税判例百選 第六版』中里 実, 佐藤 英明 他, 有斐閣, 2016年 ※テキストはスクーリング受講許可者に配布します。			
この科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①「税法とは何か」という基本的な概念を理解することができる。</li> <li>②専門性の高い租税法上の問題点を、判例を通して理解できる。</li> <li>③判例研究を行うこと、学説による対立の根拠を調査することができる。</li> <li>④「論文の書き方」の基本を理解できる。</li> </ul>			
成績評価の方法	少人数の授業となるため、授業への参画度が重要になります。出席、発表、試験で成績評価をします。			
事後学習	授業中に取り上げられる判例には限りがあります。教科書に載っている判例を読んで、その概要を理解しましょう。			
事後学習の参考文献	教科書の末尾に、参考となる資料(判例集、法律雑誌等)が掲載されています。判例学習をさらに進めるには、これらの資料(図書館を利用)に目を通し、学習の広がりを経験することを勧めます。			
スクーリング受講時に用意するもの	<input checked="" type="checkbox"/> テキスト <input checked="" type="checkbox"/> 筆記用具			